

## <大会開催報告>

# 初年次教育学会 第7回大会 開催報告

岩井 洋  
帝塚山大学

2014年9月4日(木)・5日(金)の両日、帝塚山大学(奈良・東生駒キャンパス)にて、第7回大会を開催いたしました。今年、本学は創立50周年をむかえ、この記念すべき年に、初年次教育学会の大会を開催できますことは、誠に光栄であります。本学では、本大会を大学創立50周年記念行事のひとつに位置づけました。本学が位置する奈良県奈良市は古都として知られ、春日大社では、20年に一度、神殿等を造り替える式年造替(しきねんぞうたい)を来年にひかえています。この機会に、ぜひ古都奈良をご堪能いただきたく、週末につながるような開催日としました。まずは、皆様のおかげで、本大会を成功裏に終えることができましたことを心より感謝いたします。

本大会は、金沢工業大学で開催された第6回大会に引き続き首都圏以外での開催となり、本学の立地からしても、当初、参加者数が少ないのではないかと危惧していました。しかし、結果的には、大会参加者423名、懇親会参加者159名という多数の皆様にご参加をいただきました。また、第6回大会と比較しても、ワークショップ11件(前回大会12件)、ラウンドテーブル2件(同3件)、自由研究発表11部会(同13部会)、個人発表51件(同52件)と、ほぼ同規模のものとなりました。

さて、本大会では「初年次教育における自己表現：表現から実現へ」をメインテーマとしました。これまで初年次教育において、「自己表現」自体がクローズアップされることは少なかったといえますが、自己をさまざまな形で表現することはコミュニケーションの第一歩であり、初年次教育にとっても重要なテーマのひとつと考えられます。そして、「自己表現」は「自己実現」へとつながっていくともいえます。このような思いが、本大会のメインテーマに込められています。

このメインテーマを具現化すべく、従来のシンポジウムにかえて、記念講演と大会企画フォーラムを開催しました。記念講演では、「シンプルプレゼンのすすめ」と題して、プレゼンテーションの世界的な第一人者である、ガー・レイノルズ氏を講師としてお招きしました。同氏のプレゼン手法は、スティーブ・ジョブズ流のプレゼンに日本文化「禅」を融合させた、シンプルかつ記憶に残る手法として有名です。また、著書『プレゼンテーション Zen』は世界19カ国で発売され、約30万部の大ベストセラーになっています。講演会場は超満員となり、収容人員300名をはるかに超える聴衆を集めました。講演では、終始テンポ良く、ユーモアあふれる話が展開され、シンプルかつ効果的にメッセージを物語る手法が実演されました。また、聴衆に意見を求めたり、聴衆同士で意見交換をさせる講演の進め方自体がアクティブ・ラーニングの手法そのものでした。その意味では、聴衆はシンプルプレゼンの手法とアクティブ・ラーニングの手法を同時に学んだといえます。

一方、大会企画フォーラムは「自己表現：表現から実現へ〈造形〉〈演劇〉〈文章〉」と題し

て、芸術表現、身体表現、言語表現に関わる教育実践が報告されました。いずれも、ワークショップ等の協働型の実践を通して、学生が自らを表現することに対する感動や新たな発見を得る過程について、詳細な報告がありました。3つの報告をもとにした議論では、自己表現と学問的知識との結合・接続に関する議論や、「リベラルアーツ」というときの「アーツ」という言葉からも、本来的に「学問はアート」に通じるとの議論などが活発に展開されました。同フォーラムにご参加いただいた皆様からは、次年度の大会においても、同テーマの部会を継続してほしいとのご意見も多くいただきました。

さて、いまひとつ本大会で実施した新たな試みは、課題研究セッションの開催です。同セッションは、研究担当理事が中心となり、初年次教育に関わる重点課題を設定し、話題提供にもとづき議論するものです。同セッションは、本大会ではじめて設定されました。「高大接続の転機とこれからの初年次教育」と題する記念すべき第1回では、3つの報告にもとづく活発な議論が行われました。本来、同セッションは、従来のシンポジウムや記念講演と同等に重要なものであると理解していますが、他のセッション等の関係上、ワークショップおよびラウンドテーブルと並列するタイムテーブルとなりました。研究担当理事をはじめ関係の皆様には、ご迷惑とご心配をおかけしましたこと、あらためてお詫びを申し上げます。タイムテーブル上、同セッションへの参加者数について心配されましたが、約150人の皆様にお集まりいただき、設定されたテーマに対する関心の高さをあらわす結果となりました。

大会運営に関しては、大学をあげて教職員一体となって取り組みました。参加者の皆様からは、通常、教員主導での大会運営が多いなか、教職協働がうまく実現している、との過分な評価をいただいたことは、誠に光栄です。また、20数名の学生スタッフも、特段の訓練をする時間的余裕がないままに当日をむかえたにもかかわらず、参加者の皆様から高い評価をいただいたことは幸いでした。本大会の運営は、本学のFD・SDや学生の教育にとっても、意義深いものであったと思います。

懇親会では、奈良市でも制定された「日本酒で乾杯を促す条例」に則って、シャンパンがわりに、本学と梅乃宿酒造株式会社とのコラボ商品「酒輪(しゅわ)」(発泡日本酒)で乾杯をさせていただきました。その他にも、「学長ラムネ」や大和伝統野菜「片平あかね」を使用した「大和ベジサイダー あかね」をはじめ、本学学生と地元企業、地域との連携による成果を展示させていただき、本学の取り組みを皆様にお伝えする貴重な場になったと感謝しています。

最後になりましたが、本大会を盛大かつ無事に終えることができ、本学の創立50周年記念行事のひとつにふさわしいものとなりました。あらためて、皆様のご協力とご支援に厚く御礼を申し上げます。

(初年次教育学会第7回大会実行委員長)